

平成21年JSAF-SR(特別規定)A講習会議事録

日時：平成21年2月14-15日

場所：江の島ヨットハーバーと神奈川女性センター

参加者：37名 別紙参加者表

議事

1、JSAF常務理事挨拶(児玉萬平氏)

2、各水域報告

- ① 南九州 (剥岩政次)：年間15レース、外洋レースは3本、三島レースはSRを抜粋して使用。
- ② 玄海 (高木政一)：SRチェックは殆どない。カテゴリー3が1艇あるのみ。今年はアリランレースがあり安全チェックの申し込みがある予定。地域としてSRの認識は少ない。
- ③ 西内海 (山本一弘)：昨年OPをやっていた子供に関する事故があった。安全認識が減少している。啓蒙が必要。年間1-2艇がSRチェックでSRの採用が少ない。
- ④ 内海 (長尾正博)：登録艇は100艇あるが、SR取得艇は15艇で、もっとSRを広める必要。
- ⑤ 東海 (石川信和)：年間35艇+パールレースのSRチェックがある。2、3の問題があったので後刻報告する。
- ⑥ 駿河湾 (藤田順行)：SRは3艇のみ。SRでレースは行っていない。JSAF以外のレースで落水事故あり。その際インフレーター救命胴衣で4箇所もの破れがあり問題となった。各地域での実情を知りたい。インフレーターへから旧来型への見直しが起きている。
- ⑦ 湘南 (榛葉克也)：大島レースをカテゴリー3で実施している。イージス艦の事故以来、各クラブレースでもライフジャケット着用が進んでいる。
- ⑧ 三浦 (油谷敏行)：15艇がSR登録。B講習会を独自に実施している。
- ⑨ 三崎 (高橋正実)：オープンレースでもSRを採用し始めている。ライフジャケット常時着用を宣言する船を募集して、6艇にインフレーターを贈与した。5-6年の経年変化を心配している。
- ⑩ 東京湾 (足立利男)：トウキョウズカップレースで三宅島スタートを設けた。外洋レースが増えて、SR艇が増加する傾向だが、まだ認識がいまひとつである。
- ⑪ 宮城帆走協会(高橋弘之)：JSAF外の組織である。ライフジャケットはインフレーターが安全化疑問である。着用に関しては殆ど常用している。

以北海域は欠席

3、逐条確認

4、決定事項

- ・ 3. 04. 3 本項に関し J S A Fではレース主催団体が採用する場合は他のハンディキャップシステムにも留意すること
- ・ 3. 19. 2 恒久的に取り付けられた寝台に関し、床は寝台とは認められない艇、クラスによっては、マットレスは必ずしも要求されない
- ・ 3. 24. 1 a) J S A Fでは修正済みの自己申告も有効とする。
- ・ 3. 29. 1 b) iv J S A Fでは71chを追加する。海岸局に加入している場合は74chも追加する。
- ・ 4. 04. 1 a) i 「ジャックステイを取り付けなくてはならない」の常時取り付け義務はレース委員会マターとする。
- ・ 4. 07フラッシュライト と4. 23. 2衝突を避けるためフラッシュライトは相互補完内容。
- ・ 4・30 ## 艇の乗員の数だけ個人用ストロボライトを常備し、常に使用できる状態とすること
- ・ 5. 01ライフジャケット
- ・ 5. 01. 2 MoMu1234をJ S A Fでは##とする
- ・ 5. 01. 2 b~f 2年後の改定で義務化 (来年I S A Fの改定に合わせる)
- ・ 5. 02セーフティーハーネスとテザー カテゴリー4も入れる
- ・ 5. 02. 5 b c セーフティーハーネスは腿紐または股紐付きのもの
カテゴリー3. 4は推奨とする

5、質疑応答と決定事項

- 1) S Rの Web 掲載は継続 Web 上での有効無効の表記はしない カテゴリーの表記不備な点を表記
- 2) 宣誓書はレース毎にレース委員会へその時点でサインして提出する
(年度初めの宣誓書を採用とするか、新たに署名宣誓書を必要とするかは当該レース委員会マターとする、チェックシートの提出もレース委員会マターとする)
- 3) アドバイザー制度の継続 宣誓書のチェックをアドバイザーが行う
宣誓書はサインをした時点で有効、安全委員会事務局にF A X送信する。
- 4) 宣誓書への書き込み項目を改正して以下の項目とする。
カテゴリー、セールN o、艇名、所属加盟団体、会員番号、オーナー名、日付、

連絡先、現行の1行目 私（ ）自身は、→ 私は、艇のオーナー～として
に変更

5) チェックシートを判り易くする

6) その他 使いやすくリーズナブルなストロボライトの掘り出しとその性能調査を
行う

7) J S A F 特別規定を会員以外にも普及を目指す。